

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 はなみずき)

事業所番号	0672300431		
法人名	オーリンク株式会社		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	山形県西村山郡朝日町大字宮宿320-6		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 12 日	開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「その人らしさを大切に」にあるよう、その方の出来る事、わかる事を活かし、自立した生活が送れるよう支援している。外出等はコロナ禍で制限されている為、室内でも楽しめるレクリエーションを工夫して多く取り入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和4年10月27日	評価結果決定日	令和 4年 11月 9日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は三食とも事業所で調理し、夕食は利用者の希望を取り入れた献立にするなど家庭的な食事になるよう取り組んでいる。コロナ禍で外出の機会が少ない中、職員がアイデアを出し合い、輪投げ、ボーリングなど様々なレクリエーションを工夫し、あたらしい活動で室内でも楽しめるよう努力している。電動足漕ぎ器具を活用し下肢筋力の維持に努めており、むくみが軽減した事例も出ている。職員は利用者のこれまでの人生の歩みから「その人らしさ」を引き出し、継続した生活をするを大切に、また職員都合にならず利用者のペースに合わせて「ゆったり楽しく」過ごせるよう心がけ、理念の実現に向けて努力している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、ユニット会議の際に唱和している。	事業所理念を会議で唱和するとともに理念に沿ったユニット目標も作成し理念の共有に努めている。職員は利用者のこれまでの人生の歩みから「その人らしさ」を引き出し、継続した生活することを大切にし、また職員都合にならず利用者のペースに合わせて「ゆったり楽しく」過ごせるよう心がけ、理念の実現に向けて努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症対策の為、行事等が中止になり、地域の方との交流は無くなっているが、近所の方が野菜等を届けて下さっている。	コロナ禍ではあるが、近隣住民が野菜や花を届けてくれるなど地域との交流は続いている。今後は地域行事の再開が考えられ、少しずつ交流できる機会を増やしていけるよう考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は回覧板等で広報紙等を定期的に回覧していたが、現在はご家族のみに季節毎で発刊している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年度からコロナ禍にて開催していない。現在も会議を行うのは難しい状況。2ヶ月に一回、ホームの現状、行事、研修内容の資料を運営推進会議メンバーの方に持参し、ご意見を伺うようにしている。	地域包括職員、区長、民生委員、家族代表をメンバーとし、2か月ごと書面開催している。事業所より、利用者の状況や行事、研修、会議の内容、感染対策状況等を書面報告し、委員から意見、質問等をいただき、その内容も含めて議事録にまとめて再度報告しており、双方向的な会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料にて実情をお伝えしている。また、町の取り組みや現状をお聞きしたり、電話でも情報交換している。	運営推進会議資料で事業所の活動状況や課題等を報告し意見をいただいている。また個別の問題がある場合等、電話や窓口で相談し協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>施設内研修で身体拘束はしてはならないと周知されている。しかしながら、転倒リスクが高い方には、ご家族と相談し、同意を得た上で離床センサーを使用している。また、毎月、離床センサー使用の有無について話し合い、夜間のみを使用にする等、減らす工夫に取り組んでいる。</p>	<p>指針をもとに年2回内部研修を行い職員への周知徹底を図っている。ユニット会議で適正化委員会を開催し、事例検討や離床センサーの必要性など話し合い、運営推進会議にも報告しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また年1回離設利用者の搜索訓練を実施し、利用者の安全確保に努めている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内研修で学ぶ場を設け、日々注意・防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護や成年後見制度についての研修は、今年度未実施であるが、今後学ぶ機会を設けていく。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結は、ゆっくり丁寧に説明するよう心がけ、理解が得られるように努めている。また、改定等に関しては、コロナ禍により家族懇談会の開催が難しい為、書面にて説明し、同意を得ている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置しているが、あまり活用されていない。コロナ禍の為、家族懇談会は開催していないが、面会や電話を通して意見や要望を伺っている。</p>	<p>コロナ禍で家族懇談会は中止されているが、普段の面会時や電話連絡時など意見や要望を伺うよう努力している。毎月、利用者の状況を写真を入れながら「1か月の様子」として郵送し、家族との信頼関係を大切にしている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に施設長との面談があり、職員の意見や提案を聞いてもらっている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績等を評価して欲しい。職員不足の為、早急な人材の確保を要望する。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等に参加し、伝達研修で職員のスキルアップを図っている。毎月、内部研修も行っている。	研修計画を作成して毎月内部研修会を実施している。職員の希望や職責に応じて外部研修受講の機会も確保している。半年ごとに職務考課を行い、面接を通して職員の課題や力量を把握し、指導・助言を行って資質の向上を図っている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	以前はグループホーム交換実習に参加していたが、現在は職員不足もあり、参加していない。メール等で意見や現況報告は行っている。また、他グループホームと電話等で意見交換を行っている。	グループホーム連絡協議会に加入しており、他事業所とメールや電話で情報交換や意見交換を行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の情報を出来るだけ把握・共有し、安心して生活していただけるよう、環境作り・関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人とご家族から不安な事、生活リズム、性格・趣味等や要望等を伺い、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族から伺った事を職員内で情報共有し、何が必要なのかを見極め、支援が出来るように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等のご本人が出来る事は協力して頂き、出来ない所を職員がさり気なくフォローしている。また、感謝の気持ちを伝え、支え合う関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で日常生活の様子をご家族に伝え、一緒に考え、ご本人を支えていく関係を築いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、こちらから出向く事は難しいが、感染予防対策をした上で面会を行っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士がコミュニケーションをとれるように職員が仲介したり、レクリエーションを通して交流が図れるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も外で会った際は、お声掛けし、挨拶している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者から個別に話を聞き、希望や意向に沿うように努めている。また、意思疎通が困難な方には、ご家族と相談した上で職員間で話し合い、本人本位となるよう支援している。	生活アセスメントシートや利用者との会話からこれまでの生活歴、趣味や楽しみ、長年やってきたことを把握し、本人の意向に沿った生活が継続できるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から情報収集し、出来るだけご自宅と同じように生活が送れるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方を見極め、日々のバイタル測定、排泄状況等で体調の把握に努めている。また、ご本人の出来る事を發揮していただけるよう支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族から生活の意向等を伺っている。また、定期的ユニット会議でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	3～6か月ごとにモニタリングを行い、状況の変化に応じて計画の見直しを行っている。見直しに当たってはユニット会議で職員全員で意見を出し合い、また家族から要望を聞きながら、利用者が楽しく過ごし、出来る事を大切に計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等をケア記録に記入、口頭や申し送りノート、メモ等で伝達し、常に情報を共有出来るようにして介護計画の見直しに活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域行事へ参加はしていない。ボランティアの受け入れも行っていない。また、どのような地域資源があるのかは再度確認したい。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族が希望するかかりつけ医への受診が継続出来るようにしている。また、職員付き添いの受診後は、必ずご家族へ報告している。	希望するかかりつけ医の受診ができるよう支援しており、家族が付き添いが原則であるが、困難な場合は職員が付き添い受診支援している。受診結果は家族に電話で連絡し、情報の共有に努めている。家族付き添い時は日頃の状況を主治医に情報提供している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が、週2回健康管理を行っている。また、職員が気付いた事を相談している。緊急時は電話で相談し、診てもらったり、指示を仰いでいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は状態を聴取し、情報交換している。退院に向けては、主治医からの説明とサマリーを通して情報を取得し、ホームでの生活についての相談を行う等、日頃から医療機関との関係作りに努めている。また、コロナ禍の為、入院時には面会が出来ないので、状態の把握が難しい時がある。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約の際、重要事項説明書にて重度化した場合や終末期にホームが出来る事を伝え、意向を伺っている。状態変化に伴い、ご家族や医療機関と相談を行う事している。</p>	<p>重度化した場合等の対応については入居時に事業所でできることを説明し、本人及び家族の意向を把握している。身体状況の変化に応じて随時家族と話し合い、主治医を含めて方針の共有に努めている。また重度化に向けた対応として看取りの研修も行っている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急マニュアルがあり、AEDの使用方法や心肺蘇生法訓練を行い、ご利用者の急変時や事故発生に備えている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年二回、避難訓練を行っており、災害に備えての食料や飲料水を備蓄している。また、地域の老人福祉施設との協力等を築いている。</p>	<p>年2回、日中と夜間想定火災訓練を実施しており、利用者を外に避難させるなど具体的な訓練となっている。広域災害の対応マニュアルを整備し、避難場所なども確認しながら避難体制を作っている。食料や飲料水等の備蓄もなされている。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりに合った言葉掛けを行っているが、忙しい時や職員不足、他利用者への対応時等は出来ない時もある。</p>	<p>権利擁護等の研修をおこない、職員に周知を図っている。特に不適切な言葉かけなどがあつた場合はお互いに注意しあつたり、ユニット会議で話し合いながら再発防止に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を伺い対応している。衣類選び等は、自己決定が出来るように働きかけている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしているが、職員不足により、入浴日等で希望に添えない時がある。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れた衣類の交換や整容に気を配っている。介助が必要な方は職員が実施している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や地元の食材を取り入れて、メニュー作りを行っている。また、食事の準備や片づけを一緒に行っている。	三食とも事業所内で調理している。特に夕食は利用者の希望を聞いて作っており、また盛り付けや片付けなど利用者も一緒に行い、家庭的な食事となっている。地域の作物や季節感を大切にメニュー、行事食、おやつづくりなど多様な食事を提供し、食事が楽しみなものになるように工夫している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事形態や栄養バランスで提供しているが、栄養士が不在の為、摂取量等について確保されているかは不明である。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。就寝前、義歯は洗浄剤を使用して消毒している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握している。自らトイレに行く事が難しい方は、定時で声掛け誘導を行っている。	排泄パターンのシートを活用して適時の誘導に努め、自立に向けた支援を行っている。介護計画に排泄支援を位置づけ、評価をすることで紙おむつ等の減少につながった例もある。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほぼ全員が整腸剤を服用しており、排泄状況に合わせて調整を行っている。水分を多めに摂って頂いている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりに合わせた入浴を行いたいが、チェア浴の順番や職員不足等の理由で希望に添った入浴が出来ない時もある。	出来る限り本人の希望に合わせた入浴支援を行っている。身体状況に併せてチェア浴を利用するなど安全の確保に努め、また拒否的な方には声掛けや時間の変更などで工夫して清潔が保たれるように支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は、自由にゆっくり居室で休んで頂いている。室内温度に配慮し、安眠出来るように支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は二人で確認し、飲み終わるまで見守りしている。症状に変化があった時は、医師へ伝えている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍や職員の体制により、外出する機会が少なくなっているが、敷地内屋外での催し物（七夕会、花火大会、お茶飲み等）で楽しんで頂いている。また、室内で楽しめるレクリエーションも充実させ、皆さんで楽しめるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出希望の対処が難しいところではあるが、ドライブ等、外部との接触を出来るだけ避けた対応で楽しんで頂いている。また、満100歳のお祝いでご家族とホテルに宿泊し、楽しまれたご利用者もいらっしやった。	コロナ禍ではあるが、感染予防に努めながらドライブなどで外出を楽しんでいる。また敷地内で七夕会、花火大会、お茶飲み会など、多彩なイベントで外の空気に触れる機会を設けている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の支払い、管理は職員が行っている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用、取り次ぎがある時は支援している。また、個人で携帯電話を持っている方は、ご家族や知人と連絡を取り合っている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に換気を行ったり、手すりを消毒している。リビングには季節の花や壁には季節に応じた貼り絵等を飾っている。また、リビング内に空間除菌脱臭装置を設置している。	居間は明るく、適切な温度と湿度、換気の管理が行われ、利用者が快適に過ごせるよう配慮されている。掃除もなされ、清潔感がある。壁面には季節感のある貼り絵など手作りの作品が展示されている。テーブルやソファでは、利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士が、楽しくお話出来るように席配置等に配慮している。また、一人ひとりの個室があり、思い思いに過ごしてもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や家具等を設置したり、家族の写真を飾ったりしている。また、安心して使用出来るように環境を整えている。	その人らしく過ごし、できることを継続できるようにするため、テレビやラジオ、衣装ケースなど馴染みの調度品や家族の写真等を持ち込んで貰い、安心して居心地よく過ごしてもらっている。温度湿度、清掃、換気にも配慮されている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介助無しでも行動が出来るような動線の確保をしている。また、トイレの場所が分かるように表記等を工夫している。			